

No. 6

1986

3月30日発行

萩の郷

発行者
下市田区

発行責任者
下井武平

印刷者
飯田共同印刷株式会社



御柱祭りについて

萩山神社は今年七年目毎に一度の式年祭でいわゆる御柱祭りが三月三十日区民総出により、賑かで勇壮にとり行われた。

当日は曇り空であったが北は大丸山、南は巡礼沢から区内を里曳きされて、正午すぎ相前後して参道から神前に進み午後二時区民が見まもる中を無事御柱建がみはしら建った。



区三役就任にあたり



区長
下井 武平

昨年十月末の任期満了による下市田区三役の改選により、私共三名がそれぞれ区長・副区長・会計という誠に責任重大な役を御引受けすることになりました。選出の方法等については聊か考えさせられる点もありましたが、選挙の結果を謙虚に受け止めて御受けした次第であります。御承知の通り「区」は地方自治法に依る自治体ではありませんが、町政に直結した行政の下部組織であり、あらゆる

地方行政に関係いたします。特に近年、生活の多様化に依り、区民、皆様の要望も多岐に渡り対応も生易しい事ではないと思います。ましてや至らぬ私達であり大変苦慮する次第であります。御受けした以上、下市田区の為に誠心誠意努力いたすつもりでありますので区民各位の御鞭撻と御協力をお願い申し上げます。新任の御挨拶といたします。



副区長
松島 重人



会計
三島 勤

最近の区の動きと今後の予定のあらまし

一、出砂原土地の裁判については、去る二月二十八日東京高裁に於て奥平裁判長より和解の話があり、次回四月二十四日に双方が金額を提示する事になった。

二、各種事業に対する区の補助規定を制定する為、特別委員会を検討を始めた。

三、六十年代より町の三カ年計画で悪水対策事業が始まり、下市田区でも五カ所が取り上げられ、内一部が着工の見通しとなった。

四、公民館のトイレを改造して区の事務所にします。

五、例年通り山作業が始まりました。御協力を願います。

六、消防署の指示に依り公民館の消防施設を整備します。

七、消防署の指示に依り、高寿館と三区会所の消防施設の整備を検討します。

お礼の言葉

林 直 輔

私達下市田区の責任者として非才も顧みず八年或は六年と懸命に務めて参りましたが、その間役員又地域住民の皆様方のご理解ご協力により、大過なく過ごさせて戴きました事を心より深く感謝致す次第でございます。沢山の人達との出会い、又色々な方々との交流をこ

公民館長就任にあたり

下市田公民館長 原 次郎

昨年末、前館長の退任に伴ない計らずも私が重責をお引受けすることになりました。

もとより浅学非才でその任ではございませんが、区民みなさんのご協力をいただき努力して参りますのでよろしく願います。

さて公民館活動は制定発足以来、その時代の変化に即応する人間形成を目的として、いろいろな社会教育が行われ今日に至っているわけですが、私達役員はこの原点に返って、体力造りや人間としての資質の向上等の諸施策にとり組んで参りたいと存じます。

またとなく

現代社会は一般的に自己中心的考え方となり、人間相互の接触の機会が大へんうすれてきています。これからは特に経済的面よりも、お互いの心の



副館長
唐 沢 武文



主 事
松島かのえ

退任あいさつ

小島 正美

月日の流れは早いものです。昭和五十二年一月から公民館へお世話様になって以来九年を過ぎました。私は三十余年行財政業務に携わって来ました者ですので公民館事業には全く無関心で余所ごとの様な気持ちでおりましたので、「これは困ったなあ」と思ってお受けいたしました。内容は組織があつて夫々優秀な部員の方々が協力し合つて、公民館活動を盛り上げて行くことにより公民館の発展が出来ることであると自覚し、一生懸命務めなければならなものでした。

部員の各々には、夫々の立場で本当にご協力をいただき大禍もなく過ごせたことを反省しながら有難く感謝申し上げます。

部員の各々には、夫々の立場で本当にご協力をいただき大禍もなく過ごせたことを反省しながら有難く感謝申し上げます。

萩山神社氏子総代決る

新年度の氏子総代は次の六名が選出されました。式年祭を始めとして、今後の活躍が期待されています。



一 区
上沼 利造



二 区
西村東一郎



三 区
小川 貞夫



四 区
木村 真男



五 区
加藤 清敬



六 区
林 明

地元出身町会議員との懇談会開催

八十余名が出席して

下市田区と下市田公民館では、去る二月二十二日午後、下市田出身町会議員との懇談会を下市田公民館で開催した。

これは区民の町政に対する意識の高揚と、各自の意見要望について町政への反映を目的に開催したものである。当日は五名の町会議員と、区長・公民館長をはじめ約八十名の区名が参加し活発な話し合いが行われた。特に中でも、

一、悪排水対策について
二、下市田地区道路改良促進と土地買収価格の見直しについて
三、自然と調和を保った開発について
四、特別養護老人ホーム・老

人福祉センター・火葬場建設・町民グラウンドの日除朝市開設に伴う要望
五、治山治水対策の早期実現について
六、育成会費助成の増額について

等の強力な要請が各議員へなされた。

当日は各団体代表者の出席もあり、各々の立場からの意見も多く、地域での問題の洗出しに効果的であり大変な盛況であった。



懇談会場風景

萩山神社ものがたり

(6)

— 御柱祭(おんばしら) —

伊谷唯介



筆者

からどういうわけか、始めはたかは不明であるが、当社が諏訪大社の分社であることから諏訪大社のそれに倣って始まったであろうことは先づ間違いないところであろう。

そこで諏訪大社の式年祭について調べてみる。その起源については「遠く古代に遡る」と云うわけでこれまた明瞭でないようだ。

ただ、諏訪大社最古の縁起書である「諏訪大明神絵詞」によると、桓武天皇(一二〇〇年前)の頃には七年目毎の寅年或は申年に行われた御造営の行事を信濃国全体で奉仕して盛大であった。が、幕府の衰退と共に祭事も次第に縮小され、明治以後は諏訪一郡の氏子が継承して今日に至っている。独特の木遣りの歌と共に二、三千人の人達によって曳行される勇壮さは言語に絶し、天下の三大奇祭(諏訪の御柱祭・吉田の火祭・島田の帯祭)の一つと云われるのもむべなる哉である。

この郷(さと)の産土様(うぶすなさま)である萩山神社は今年(昭和六十一年)は七年目毎に一度の式年祭で、いわゆる御柱(おんばしら)の年である。

昔からの仕来りであり、その年、寅年或は申年に当る方々と厄年の人達が主となるが、もちろん氏子全戸の者が出勤して賑やかに盛大にとり行われるものが習わしである。

この祭事が当神社でいつ

う。

また、なぜ七年目毎に式年祭をとり行うかについては、建物の耐久年数と関係があるとか、陰陽道の影響であるとか云われているが定説はなく、柱を建てる理由も、四方鎮護のためとか社殿を造営するかわりとか、諏訪族のトーテンポールとか、或は陽根の象徴など、二十種類もの説があるとか云われている。

なお、諏訪大社の御柱は上社は八ヶ岳中腹の社有林から下社は霧ヶ峰に続く東俣国有林から搬出し、その大きな天正十二年の書によって第一のものは五十五尺第二以下はそれぞれ五尺落ちで、太さは第一が六尺五寸廻り、第二が六尺廻りなどとなっている。

さて、当神社の由緒録には御柱(おんばしら)のことについては何も書いてないので諏訪大社の御柱のことを主として書くことになってしまった。

当神社の御柱は昔から、北は大丸山、南は巡礼沢から各一本の計二本を、北は一・二・六区、南は三・四五区、の皆さんによって曳行されることになっていたが大丸山が公園として整備さ

れるに従って、適当な御柱が少くなり、今後のことを心配する向もある。また、御柱の大きさは長さ三十三尺三寸、太さ四尺五寸くらいと定められている。

里曳きの通路については従前は北は大丸山麓から中学校前を通過して駅へ出、踏切二ヶ所を通過して参道碑のところへ、南は巡礼沢の山の神前から南大島川端へ出て下井区長さんの北側を通過して旧道五区合所、四道を通って同じく参道碑へそれより二本の御柱は相前後して神社へ向うという道順であったが、交通事情の変化によって多少の変更があるかも知れないと思われる。

最初にも書いたように今年(昭和六十一年)は寅年である。関係の方々によって着実に準備が進められた。

獅子舞がそうであるように日曜日ではないと始まらない。今年は三月三十日が日曜であるからこの日に夕祭をとり行い、従って御柱の里曳きと続いて建御柱を行うこととし、翌三十一日に本祭を執行することで計画した。

当日朝午前七時、祝砲の合図によって神社へ集合、

神官の修被を受け、それぞれ南北へ分れて発進、現地にて準備万端整えた上午前九時これまた煙火の合図によって南北一斉に出発することとした。

予定では午前十一時二十分頃、南北の御柱は参道碑のところへ集結し、それより南北前後しながら神社を目標して坂道を登って神社に到着、それより建御柱を執り行つて一切が終了するのが午後一時頃か。

幸に好天に恵まれ全戸の皆さんの御協力、御出動を

願って賑々しく盛大にしかれ無事この御祭事が執行されることを心から祈念しながら諸準備をした次第です。

余白があるので追記する
× ×
「桓武天皇(一二〇〇年前)の頃には信濃国全体で奉仕して云々」と書いたが、その当時から仕来りたりか或は名残りは知らないが、式年祭の年には代表者が諏訪大社まで出向いて、次のものを拝領してきて御柱祭を行うことになっている。

一回の昭和五十五年庚申年に拝領したのは

一、雄鎌(なぎがま)

鎌形をしているが、へビとも鳥の形ともみえるようデフォルメされていて、御神体の一つであるといわれる。

一、御符

本年 外県 御頭番 之事
依 恒 例 指 定 量
守 田 規 可 勤 仕 者 也

昭和五五 庚申 三月九日
信濃国一ノ宮 諏訪大社

一、神符 諏訪大社のお札

以上の三体である。殊に「市田郷は今年御頭番である古い仕来りを守ってしっかり勤めよ」と云う意味の御符を拝領して、謹しみ畏れて勤めたものであったであろうことを想像する。

長寿一番

池田かのさん

(九十八才)



下市田第二区共
南常会の池田かの
さん宅を訪問しま
した。離れ屋に休
んでおられるとい
われましたので居
間までお邪魔いた

私は下市田一番です

酒屋の横から裏
の離れに行く右手
に、盆栽の小品が
数えたら二十鉢あ
り、八畳の落着い
た小座敷より南側
に四十数鉢の大部



盆栽一番

熊谷 章さん

(出砂原)

しました。
今日はノきれいなお婆さ
んで九十才を越えていると
は思えない十才位若く見え
る方です。炬燵に入ったま
までお聞きいたしました。
。生家はどちらでしようか。
飯田市上飯田羽場です。
。生年月日は何年ですか。
明治二十四年二月十七日
ですが戸籍届けが一年お
くれておりますので明治
二十五年二月十七日です。
。池田家へお嫁にこられた
のは何才の時ですか。
昔のことで数え年十八才。
。ご主人のお名前は。

池田浅太郎と申しました
が大正十二年九月十日に
亡くなりました。
。今は教育者の家庭のよう
ですが昔はなにをされて
いましたか。
昔は純百姓で田・養蚕を
しておりました。
。今までに苦労だったと思
われることがありましたか。
主人は四十才頃から腎臓
結核で全三年間闘病生活
をして四十五才で亡くな
りました。その時私は三
十三才でした。当時の医
学は今ほど進んでいませ

んし結核といえは金のか
かる病気だったわけで、
飯田中の良いといわれる
先生には全て診察してい
ただきました。今の様に
保険もなく亡くなった時
は借金山の山が残されま
した。その後の生活が本
当に苦労々々で大変なこ
とでした。
。大変な苦労をされた様
ですが、その間健康で過
せたことは何か秘訣があ
るのでしょうか。
特に健康のために注意し
たことはありませんが、
良く働いて身体を動かし

かくしなのでしよう。

明治男の男っぽい照れを
持った人です。
草木の美しさを語る時の
熊谷さんに多感な少年の日
を回想する若々しい眼の光
を見ました。自分の土で力
いっぱい生ききる盆栽に熊
谷さんの人生感を見ました。

(記)

(盆栽談)

大自然の美の深奥を、小
盆上に具体的に生活の中
にとりこみ、日夜身近くに
賞するのが盆栽であります。
春夏秋冬うつりかわる自然
の美しさ、一木一草にそな
わる風韻、これらの忘れが

クラブ紹介

(6)

しらさぎ会

山本 一子

私達クラブでは、歌謡舞
踊・民謡など月二回、座光

たこと。牛乳・肉が嫌い
ですが、魚・その他は何
でも良く食べました。そ
の他は常に家庭内が明る
く心配ごと、嫌なことの
ないことが長生きの秘訣
かと思っています。

(取材 小島 北林)

たい印象をまのあたりに具
現し得たよろこび、これ
こそ、創造芸術のもたらす最
高の感激でありましょう。
(取材 唐沢・北林)



しらさぎ会のみなさん

クラブの主な舞踊として
黒潮太鼓、無法松の一生、
祝船など外いろいろです。
大勢の人前で発表するとい
う事は本当に大変です。度
胸と勇氣百倍にして、震え
る足を押え舞台上に上ります。
ボランティア活動として、
年三・四回高森荘・阿南老
人ホーム富草寮など慰問に
行き、惜しみない拍手をい
ただいた時、感激と喜んで
いたただけたことがとって
も嬉しく心に残ります。秋
には一年間の総まとめで、
発表会を盛大にし、町の民
謡クラブでは、公民館活動
として敬老会・町民運動会
ダサラ燈籠流しの時など、
民謡流しを他のクラブの皆
さんと一緒に参加していま
す。又、新年会・日帰り旅
行・忘年会とコミュニティ
(次面五段へつづく)

史跡めぐりシリーズ(6)

惣兵衛堤防について

塩沢 尚人

大井の開さく 築堤工事と併せて、灌漑用水路を掘さくされた。これを天竜井とも間夫井とも呼び、堤防の頭より五百米の上部から天竜川を堰き入れ、水門の上手に放水路を設けた。井幅は狭い所で二・米、広い所で三・六で概ね上流は石積が多く、下流は土手で築かれていた。

三、名石工中村惣兵衛

惣兵衛は飯田の番匠町に住み、家号を吉田屋といった。家業は石工で近在の石垣を中心に、築堤工事に従ってその堅実さは、近隣でも高く評価されていた。下市田村大川除の石工頭に任用された時は、七十五才という高齢であった。任命された惣兵衛は、下市田安養寺前の民家(現新井千春氏宅の位置)に宿泊して、日夜築堤工事に専念して、三カ年でこの大工事を見事完成したのである。

今日の米価に換算してみると、宝暦年間の米の値が一兩に三俵半と仮定し、今日政府買上の米価一俵二萬三千円とすると、三俵半は八万五五百円、一兩を八万円と計算すると千八百五十八兩は一億四千八百六十四万円という大金であった。

成果 この大工事の完成

しかし対岸の村々の恨を憂慮した先立ちの人々は、「惣兵衛は川除の人柱になった」といいふらして惣兵衛を一時飯田の松尾町にくまったという。のち領主

は下殿岡村に田畑と住居を贈り、惣兵衛は余生を送っていたが、宝暦十二年八十才で没した。中村家の墓地には「一釈浄久、釈妙久」の石碑がある。妙久というのは、惣兵衛の妻女の法名である。

四、下市田村大川除の顕彰 堀親長侯の御銘

寛政五年堤防完成四十年目、下市田村民の願い出により、飯田領主七代親長は「下市田邑堤防之御銘」を名文で綴られたのであるが、残念ながら碑を建てるまでには至らなかった。

分杭の建主 寛政七年には、堤防と大井についてその説明を書いた分杭を建てた。その後、享和・文政・天保年代に建てかえられたという。

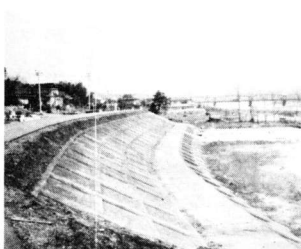
絵図の作成

文化二年九月、堤防が完成した五十三年目、下市田村民は飯田藩へ「下市田村大川除絵図」の作成を願い出た。藩では絵師に命じて二枚を描かせ一枚は藩の控とし、今一枚は下市田村へ下附された。

現在は秋山神社と下市田堤防区に二枚とも保存されている。(堤防区のものには資料館に寄託されている)

惣兵衛の供養碑

嘉永五



惣兵衛堤防

年堤防完成百年目、惣兵衛没後九十年に当る下市田村民は惣兵衛の功績を讃えて供養碑を建立して惣兵衛の菩薩を弔った。

五、その後の堤防

堤防の補修 堅牢な堤防は立派に完成したが、洪水の都度毎年のように、連年補修工事は行われてきた。

この工事は、三分の二の人足高と他の人費は領主が負担して行ない、あとの三分の一は地元負担であったという。

延長工事

領主が奥州白河藩主安部氏となり、安政四・六年の三カ年かけて、惣兵衛堤防下流にほぼ一直線に、百八十メートルの堤防を増設した。その技術は著しく劣っていたという。

この工事は自普請で、人足延五万八千七百八拾四人余りという大工事であった。領主安部氏の助成も相当あったと伝えられている。

一豊かに楽しんでおります。四月には、松川のカラオケクラブと交流会も予定されております。私達がこうして趣味を存分に活かせる

五区生花グループ ふづき会

下井 信子

私達の会(代表者・牧内圭子)は、昭和五十七年七月発足し、七月の旧暦「ふづき」をとって会名にしました。会員は、三十才代から六十才代までの、巾広い層で十五名であります。



善意へのお礼

この頃、上洞常会林志かさんから、下市田公民館へ日頃造られた木綿の雑布を沢山いただきまして。善意に感謝し有効に活用させていただきます。

研究会には、まだ日も浅くて自信もないのですが、土屋先生に勇気づけられて、都合のつく人は参加し、ご指導して頂いた上に、他のみなさんの作品も見せていただいて良い勉強と励みになると思っております。

今は、どこの家にも庭があり、四季の草木があつて芽がふき、花が咲き豊かさ

《私の体験》

健康な腹づくり

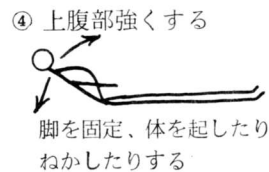
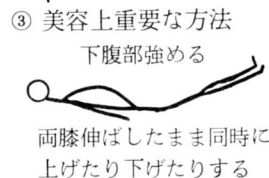
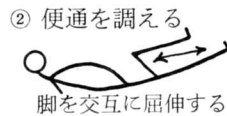
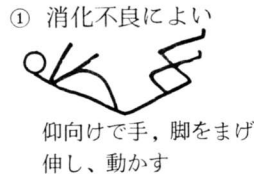
上沼正清

まだ、飯田中学生頃、体育を担当された寺島士先生が、お前さんは姿勢がおかしいが、腹に異常ないかと問われたことがあった。先生は外形からでも、姿勢を見るだけでわかったらしい。そして、姿勢を正しくする倒立運動、鉄棒運動等をす

わかった。「正しい姿勢から見た健康の科学」で力説される、「腹は健康と気力の根底」について、次に一部を紹介させていただきます。

『健康な腹とは』食欲がある、三度の食事がおいしい、外形的から見て、みず落の部分から上腹にかけて美しいふくらみを持ち、肋骨の下へ指が入るくらいのゆるみを持っている。『落ちくぼんでいる場合』は、

1. 仰臥姿勢から脚屈伸する



4. 仰臥の姿勢から両膝を屈げ、屈げた膝頭を両手で持ち交互に軽く引きこむ

腹筋力を強くさせる



5. 按摩法「の」字の按摩



腹のしこりをほぐす

へそに手のひらをあて、左から右へ「の」字をかくように廻す

それは決して相手のせいではなく、私自身の心が相手の態度や考え方を写し出しているのだという意味に於てですが、それだけに事に当てる身の処し方は大事にしなければと、今になっても反省することばかりです。

町長選挙をふり返って

4区 北原幸男

私は今までよそ様に働かせるという側になりまして。よく、選挙程人の心のつかめないうれないうれはないといわれますが、私が素人のせい完全反対に選挙程人の心がわかってるものはないという感じを受けました。そして、それは決して相手のせいではなく、私自身の心が相手の態度や考え方を写し出しているのだという意味に於てですが、それだけに事に当てる身の処し方は大事にしなければと、今になっても反省することばかりです。

新しい吉川町政が始まったばかりですが、良い町づくりは町長を叱咤激励して私共自らが町政に参加するのだという、この選挙から得た教訓を、今から生かさなければと思うのですが。

一月の町長選は、得票率で云うと吉川さん約五十三パーセント、山本さん約四十七パーセント、その差わずか六パーセント余り、得票にして五百票差ですから二百五十人の人が当落を左右したわけで大変な激戦であったといえましよう。

私は今までよそ様に働かせるという側になりまして。よく、選挙程人の心のつかめないうれないうれはないといわれますが、私が素人のせい完全反対に選挙程人の心がわかってるものはないという感じを受けました。そして、それは決して相手のせいではなく、私自身の心が相手の態度や考え方を写し出しているのだという意味に於てですが、それだけに事に当てる身の処し方は大事にしなければと、今になっても反省することばかりです。

萩山神社祭詠進歌

(五号より続く)

。ゆめ多き旅の帰りの孫の来ぬ

祭りの夜のおかるき部屋ぬち

大石 ふみゑ

。しべ抱き花びら閉ずるかたくりに

夕べ流るる春祭りの笛

加藤 みつ江

。種ぐさの花店におき春の香の

ただようなかたいたいこ焼やく

寺沢 玉枝

。春おぼろ雲中のさくら咲き初めて

萩山囃子里にひろぐる

竹内 通夫

。獅子招く稚児の姿もうたけて

春陽遍ねし萩山の里

鎌倉 和女

。安養寺に獅子は還るとさわたちて

祭り囃子習ふ音のする

小畑 寿美恵

。萩山のさくらは未だかたけれど

杜きよめて祭典を待つ

塩沢 秀子

。宮の森祭りばやしのこだまして

稚児の獅子引く萩山の郷

岡本 とよ

■小中学生の作文■

部活で学んだこと

一区 北沢美栄子

早いものでもう中学校生活もあとわずかです。

中学校生活をふり返って

思い出されることは、もちろんたくさんありますが、やはり一番と言えは部活のことだと思えます。二年と三カ月ずっとバレーを続けてきたわけですが、途中で何度もやめて

しまおうと思いましたが。それは自分がものすごくおとなっていたからです。「友達」はみな上手になつていくのにどうして私はダメなんだろう、もうこれ以上やったらうまくなかならない。それに一緒にやる友達にも迷惑をかけてしまう。そう思うとやめようかどうかどうしようかと迷ったこともありましたが、でもずっとやってこれたのは仲間のはげましと私自身バレーが「好きで」「好きで」あった事が続けたことだと思えます。皆いい人ばかりでミスをして笑って「ドンマイ」って言うって背中をたたくてくれたり私ができなくて困っていると、いろいろと上手に説明しながら細く教えてくれたり……本当に心から頭が下がる思いです。二年三カ月途中でやめなくて本当によかったと思えます。続けてきたおかげでいろんな事を知ることができ勉強になりました。仲間の優しさ、協力、根生と。

これからは生きていく上で二年三カ月苦しかった事、つらかった事にたえて頑張つて続けてきたバレーの事を忘れずにいろいろと頑張っていきたいと思えます。

趣味

二区 尾畑 徹

僕は、音楽を聞く事が好きです。音楽といっても、クラシックを聞いています。もう、二年くらい前にクラシックのとりこになつてしまいました。どうしてこんなに好きになつたかという事は、自分でもよく分かりません。何回も聞いているうちに、自然に好きになつてしまいました。

僕は、ラジオのクラシックの番組でいい曲をやっていると、それをテープにとつて、暇さえあれば、何回

部落長になつて

五区 林 一路

五年生の三学期の終り、ぼくが部落長に決まった。あまりなりたくはなかったが、決まったなら最後までやり通したいと思つた。

まずは春の親子遠足から部落長の仕事が始まった。目的地は、飯田の創造館だった。部落長の仕事は意外とえらくて、この親子遠足が終わつてからのゴールデンウィークは熱が出てずっとねているということになつてしまった。

毎月一回ずつある集団下校では、いつもてまどった。

も聞いています。今ではもうそういうテープがたくさんあります。また、よく友達とM君と、テープを交換して聞き合ったりする事もあります。学校でもよく、そのメロディーを口で歌ったりもします。

僕はどんな曲が好きかというと、オーケストラの曲が好きです。とくに、交響曲は良い曲だと思います。例えば、ドボルザークや、チャイコフスキーの曲が好きです。これからも、クラシックを聞いていきたいです。

下校カードをなかなか提出してくれず、毎月、集団下校をしたあとの日はとても困った。

次に、夏の休みにやる行事をした。やる行事は、はるごう水さんとききょうだめしと花火大会に決まった。はるごう水さんは、はぎ山神社で行なつた。なんと、いつもとはちがうやき肉をした。思ったよりこれが成功して、とてもおいしくやき肉をたべた。

次は、部落長として最後の行事、新年会とどんどこを計画した。新年会は、一月六日に公会堂で行った。

初め室内でレクリエーションをしてそれから、おしるこ等を食べて楽しく終った。これで部落長の仕事は終わった。けれど次の部落長に来年度はがんばってほしい。

編集後記

七年に一回の御柱祭りも盛大に終り桜の開花が間近い季節となりました。

区報第六号の発行は区三役の改選、公民館長の退任等で大へん遅れました。編集委員も区三役以外は現メンバーで今年末までやって参ることにしました。

第五号発行から今日まで区内でもいろいろできごとがありました。すべて各区分の判断により終末を経て、これからはお互いのわだかまりを整理して行動していくことが期待されています。

今回から「何でも下市田で一番」の記事をとりあげました。

今後ともみなさんの気軽でおもしろい投稿をお待ちいたしております。

なお、編集の都合で、原稿の一部を割愛させていただきますところもあります。ご寛容ください。